

<はじめに>

みなさんは、新しい地へ出て行くとき、どんな気持ちを抱くでしょうか？新しい環境に飛び込む時、期待と同時に不安を感じることがあります。イエス・キリストを信じたペテロがどのような歩みを送ったのか、ともに御言葉に聞きましょう。

<向こう岸へ渡ろうとして>

時は深夜 3 時。イエスの弟子たちは、船に乗り込みましたが、向かい風で波が起き、漕いでも漕いでも前に進まないのです。弟子たちは、とても苦戦していました。私たちも、時おり強い向かい風が吹くような経験をします。努力はしている。一生懸命努力し、学び、準備し、働いている。でもなかなか結果が出ない。風当たりが強い。そんな時、私たちは疲労感、無力感を感じるのです。

<湖の上を歩かれるイエス様>

そんな弟子たちがふと湖に目をやると、波の上を歩く人が見えました。「幽霊だ！」もう大騒ぎ。すると、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない。」と。イエス様でした。嵐吹き荒れ、へとへとになるような中、イエス様は私たちの元に来てくださるのです。

<ペテロの水上歩行>

28 節を読みましょう。「するとペテロが答えて、「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」と言った。イエスは「来なさい」と言われた。そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスの方に行った。」

湖を歩いて来たのがイエス様だと分かった弟子たち。すると、ペテロはなんと、「私に水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください」と願い出た。イエス様も、「来なさい」とお答えなされる。そしてすぐさまペテロは舟から降りたのでした。

ところで、ペテロはどうやって舟から湖に降り立ったのでしょうか。実は以前、ガリラヤ湖で 2000 年前の舟が引き上げられたのですが、それは長さ 8.2 メートル、幅 2.3 メートル。水面への高さもあります。ましてや水面、しかも嵐の湖、それも夜の湖。元漁師のペテロは、危険を知っていたでしょう。しかし「えいっ」と飛び降りた。そして、一歩、また一歩と、イエスのもとに向かっていきます。

ペテロの行動はまったく無鉄砲です。しかし主にある無鉄砲でした。彼はイエスのもとへ行きたかったのです。イエス様の招きがあればきっと歩けると信じていたのです。

これは私たちへのチャレンジです。私たちは頭で、これは安全か、これは大丈夫かと考えます。そんなところに出て行くななんて愚かじゃないか。そんなことは無理じゃないかと。それは、難しい人間関係、難しい交渉、難しい試験かもしれません。しかしです。イエスの招く声を聞き、イエスのもとへ少して

も近づきたいと信頼して出て行くとき、そこに道は出来ていくのです。キリストが歩かせてくださるのです。私たちはイエスに近づきたい一心で湖にすら踏み出したペテロの信仰を問われています。

<おぼれかけるペテロ>

さて、人類初、水上歩行中のペテロ。おそらく必死に、イエス様のもとに行きたい一心でイエス様だけを見つめて歩いている。しかしその時ふと不安に陥ったのです。

14章30節～31節。「ところが強風を見て怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」

ペテロは怖くなった。風を見たからです。彼はイエス様から目をそらしてしまった。あっと言う間に沈みかけるペテロ。とっさに叫びます「主よ、助けてください」。

イエス様は30歳まで大工をしておられました。がっちりとした体つきだったでしょう。ペテロがおぼれかけた瞬間、すかさずグッとつかまえるイエス様。引き上げる手の力、その迫力。間近で目を合わせ、イエス様は言われました。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」。私たちは、歩み出してみたものの、風を見て心配になり、沈みかけることがあるのです。最初は信仰がある、でも心配の風が吹き荒れ、問題に目を奪われておぼれてしまう。私たちは実に疑いやすい者です。

しかし。信仰の弱い私たちのことを、イエスさまは見放されないので。しかも、私たちがおぼれるたび、その力強い手で、私たちをがっしりとつかみ上げてくださる。イエス様は必ず救い出してくださるお方なのです。

<あなたは神の子です>

32節、33節、「**そして二人が舟に乗り込むと、風はやんだ。舟の中にいた弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、イエスを礼拝した。」**

風は、イエス様の声を知っていた。この天地万物を造られた、イエス様の声を知っていた。そして、あんなにもやまなかった風を治めたイエス様のお姿を見て、弟子たちは知りました。イエス様は、自然を治める神だと。それゆえ彼らは「確かにあなたは神の子です」と言い、イエス様を礼拝したのでした。

<まとめ>

私たちはよく、逆風など吹かなければいいのに、と思います。しかし逆風にあったからこそ、弟子たちはよりイエス様ご自身の力強さを知ったのです。逆風そのものが問題なのではありません。逆風はいつでも吹きます。逆風が問題なのではなく、むしろ逆風はイエスに出会うための機会なのです。

イエス・キリストを信じて生きる道は、道なき道と見えるかもしれませんが、しかし、イエスのもとに行きたいと、イエス様のもとに向かって歩み出す時、道無きところに道ができるのです。しかも、道を私たちが造るではありません。イエス様が造られる。しかも、その歩みは「安心しなさい」との優しい語りかけを聞く歩み。不安に溺れても、「大丈夫か」と力強い手で救い出していただく歩みなのです。